

No.7 多発しているトラック - 墜落・転落の死亡災害事例（2019年）

2019 年 生 月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
7	10 ～ 12	コンクリートミキサー車の生コン投入口（ホッパ）からの墜落。被災者は、ホッパからドラム内に入りドラム内面に付着したコンクリートを研った。被災者は、当該作業を終え、ホッパから出ようとしていて、ホッパから上半身を出した状態であったところ、突然痙攣を起こしてのけ反り、のけ反った姿勢が故に自身の重心位置がホッパ外になってしまい、ホッパから3.08メートル下のスロープに墜落した。	10901	221	1	10 ～ 29
10	8 ～ 10	被災者は、現場で作業員が使用するために軽トラックの荷台の上に設置された簡易トイレを使用した後、荷台から地面に墜落し、後頭部を強打した。その後、病院に搬送され、手術が行われたが、同日午後死亡した。被災者は、軽トラックの荷台から降りようとして、何らかの要因により体勢を崩して墜落したと推測される。	30106	221	1	1 ～ 9
9	8 ～ 10	林道の改良工事現場において、土砂を運搬していたダンプトラック（最大積載量2トン）が、林道の路肩から約12m下へ転落した。	30106	221	1	10 ～ 29
2	8 ～ 10	自社の資材置場にて仮設トイレを、ダンプトラック荷台から降ろすため、トラッククレーン車のクレーンを用いて50cmほど吊り上げたところ、玉掛に使用していた繊維ロープが切れ、トイレがダンプ荷台に落ち、その衝撃によりダンプが揺れ、ダンプトラックのプロテクター上で玉掛を行っていた被災者は、バランスを崩し、運転席前方のアスファルト地面に頭から墜落した。	30106	221	1	10 ～ 29

11	8 ～ 10	前日までに工事が完了し、現場で使用したドラグ・ショベル等を回送車で運搬する作業を被災者一人で行っていた。現場付近を通行しようとした車両の運転手が、荷台がジャッキアップされてドラグショベルを乗せた状態の回送車と道路脇の法面下に倒れている被災者を発見したもの。その後、病院で死亡が確認された。	30107	221	1	10 ～ 29
12	10 ～ 12	会社の敷地において、被災者が積載荷重30480kgのトレーラーにチップを積み込みシート掛けを行っていたところ、トレーラーの荷台から363cm下の地面に墜落したものと推定される。なお被災者は一人で作業を行っており当該作業を現認した者はいない。	40301	221	1	1 ～ 9
11	8 ～ 10	倉庫にて、1人で飼料運搬車に飼料を積み込む作業を行っていた被災者が同運搬車付近で倒れているところを発見されたもの。フォークリフトで、同運搬車の飼料タンク上まで吊り上げられた飼料用バッグは下部の投下口が開いていて空だった。また、同タンクは満杯で上部の蓋は開いていた。被災者は、保護帽、安全帯ともに未着用であった。	40301	221	1	10 ～ 29
11	2 ～ 4	被災者が、配送先にて、駐車場にトラックを停車させ、店内へ荷物を配送するためトラックの荷台から降りようとしたところ、車両ステップを踏み外し、墜落したものである。なお、保護帽は着用していなかった。被災者は災害発生8日後に死亡した。	40301	221	1	1 ～ 9
10	8 ～ 10	配送先において、最大積載量28.4tのトレーラーの荷台上で荷に掛けられたシートを畳む等の荷下ろし準備作業を行っていたところ、高さ148cmの荷台上から墜落したもの。	40301	221	1	10 ～ 29
8	16 ～ 18	被災者（トラック運転手）は、自社倉庫内で荷役作業員ら2名と荷卸し作業を行っていた。荷卸し後、荷台に翌日使用するパレットを積み終え、荷役作業員らがフォークリフトを片付け戻ってくると、被災者が荷台後方の地上で仰向けに倒れていた。荷台の高さは約1m。被災者が直前まで着用していたヘルメットは脱いで助手席に置かれており、荷台にはラッシングベルトが一部付けられた状態であった。災害	40301	221	1	1 ～ 9

		から約 1 か月後に死亡した。				
7	16 ～ 18	事業場に最大積載量 13 トンのトラックで鋼製の型枠材を運送する途中、駐車場に停車した際に、あおりを開いて積荷の再荷締または増締を行っていたところ、高さ約 1.5 メートルの荷台から転落し頭部および全身を強打した。その後、病院に搬送されたが、3 日後に死亡した。転落時、被災者は保護帽を着用していなかった。	40301	221	1	10 ～ 29
7	6 ～ 8	荷配送のため 4 t トラック（平ボディータイプ）を運転し、配送先付近のコンビニエンスストアに駐車し、買い物をした後に、あおりを下げて荷台の積み荷を確認した際、約 1.1 m 下のアスファルト舗装面に、頭部より墜落したもの。災害発生後、入院治療を受けていたが、2 か月半後に死亡したもの。	40301	221	1	10 ～ 29
6	14 ～ 16	自社倉庫敷地内において、トラック（最大積載量 7.5 トン）に荷（石膏ボード）を積んだ後、シート掛けのために、被災者ともう 1 名で荷の上ののって作業していたが、荷台前部へ移動中、荷の間の隙間（約 20 センチメートル）に足を取られた結果、バランスを崩して 2.67 メートル下の地面に墜落し、頭部挫傷により約 8 時間後に死亡したもの。作業時、被災者とその同僚も保護帽を着用していなかったもの。	40301	221	1	10 ～ 29
6	20 ～ 22	出張先においてトラック（最大積載荷重 2.1 トン）の荷台後方から墜落して頭部を強打し、救急搬送され入院したが、16 日後に死亡した。なお、保護帽は着用していなかった。	40301	221	1	1 ～ 9
5	12 ～ 14	荷積先の事業場において、荷積先の作業者が 10 トントラックの荷台にアルミニウムの切り粉をフォークリフトで積込み、ドラグ・ショベルでならす作業を行っていたところ、トラックの運転者がトラックの荷台上で切り粉に埋もれた状態で発見された。	40301	221	1	10 ～ 29
4	8 ～	自動車道のインターチェンジから入った高架の車道の直下の約 9 メートル下の草地に墜落している被災者が発見されたもの。被災者は、取引先に石膏ボードを納入し、残りの石膏ボードを別の取引先に納入す	40301	221	1	30 ～

	10	る予定であり、インターチェンジの入口近くの路側帯上（被災者が墜落した直上の道路上）に貨物自動車を止めていたもの。				49
2	0 ～ 2	被災者は、車輛運搬トレーラを運転し、自動車の輸送業務を行っていた。被災者は自動車販売店近くの公道にトレーラを停止し、積んできた車両を全て降ろし、降ろした車両の内1台をトレーラの荷台の二階部分（高さ約3m）に積み込んだ。同僚がトレーラの荷台の横で頭部から血を流して倒れている被災者を発見した。午前11時9分通報。通報から1時間半後に死亡が確認された。	40301	221	1	10 ～ 29
2	8 ～ 10	被災者が、自らが保守管理する冷凍冷蔵車のオイル交換等のために自動車整備工場に同車両を持ち込み、自動車整備事業者によりオイル交換等が行われていた際、同車両後部側にうつぶせの状態で見倒れている被災者が発見されたものである。同車両の荷台床面の高さは1.43mであるが、発見時はジャッキアップされて、工場床面からの高さは1.93mであった。現認者はいない。	40301	221	1	10 ～ 29
9	10 ～ 12	被災者は、伐採現場で造材が終了した丸太を7km離れた集積場所まで運搬するため、最大積載量9.3tの車両積載型トラッククレーンに長さ4mの丸太約60本を積載し、幅員3.5mの林道を走行していたところ、コンクリート舗装してある林道の路肩が崩壊（長さ3.5m、幅最大68cm）し、車両とともに崖下に転落した。被災者は、林道から約20m下の崖に蹲っているところを発見され、救急搬送されたが搬送先で死亡した。	60201	221	1	10 ～ 29
5	10 ～ 12	被災者は、建設現場内で使用する重機に給油を行うため、給油車に乗り単独で軽油の配達業務に従事していたが、その際に一般国道から建設現場へ通じる仮設道（幅約3.3m）を後進中に道路脇の斜面下（高さ約1.6m）に車ごと転落したものの。	80204	221	1	1 ～ 9
	16	管理しているゴルフ場の敷地内道路脇が土砂崩壊し、その復旧作業を行っていた。坂道の途中にタンク車を停車させ、道路上の土砂を水洗していたところ、タンク車が逸走し、タンク車のホース先端で作業し				10

10	～ 18	ていた被災者がタンク車とともに道路脇の崖下に転落したもの。タンク車を停車させた坂道は約7度の勾配があり、当該タンク車を停車させてから約5分後に災害が発生している。	140301	221	1	～ 29
11	8 ～ 10	事業場の廃材置き場において、廃材を積み込んだ4トントラックの荷台にシートをかけるよう指示を受けた労働者が、トラック運転席横で倒れている状態で発見された。	150102	221	1	1 ～ 9
3	12 ～ 14	被災者は会社敷地内において、大型トレーラーの荷台に積んだ積荷のタイヤ片の積み方を整えるために、大型トレーラーの荷台に上がりあおりの上に乗って作業を行っていたところ、バランスを崩し頭から地面に墜落した。被災者はヘルメットの着用をしていなかった。	150102	221	1	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_36.html